

ノルウェーの教育改革と2006／2007年・初等中等教育課程改訂 ——この改訂の前後展望と共通科目「数学」教科課程翻訳——

北川邦一（大手前大学）

はじめに

本発表研究は、2007年12月執筆・2008年3月発表の拙稿「ノルウェーの2006年/2007年・初等中等教育課程改訂」（以下、「北川08年稿」と略記。別添え資料に複写配布）（注1）の継続である。北川08年稿は、この新教育課程について、「新教育要領の構成」（95頁以下）、「知識向上教育課程の科目と構成の概要」（同前98頁以下）、「知識向上教育課程の科目と時間配分」（100頁以下）の把握に止まっていたが、それを教科等教育領域の内容に立ち入った研究に発展させようとするものである。しかし、後述のとおり、2009年10月22付け教育管理庁通知による教育課程改訂の再改訂があって、本大会プログラムの「発表要旨」に予め記載の通りでなく、副題のようにしか発表出来ないことをお詫びしお断りする。

（一）ノルウェーの教育改革・教育課程改訂研究の経過

（1）ノルウェーの教育研究への関心は、日本の教育制度の改革研究にはその「対象化」が重要であると考え、そのためには外国の教育制度との比較研究が必要と考えたことに始まる。その考えに基づき、1990年代前半はフランスの教育研究を行い、若干の論稿を書いたが、さらなる研究の展望に行き詰まった。折から、子どもの権利条約批准の問題がわが国でも生起し、それを受けて、福祉や子ども、女性の権利保障では西欧・米国より先進的な北欧における子どもの権利保障に関心をもち、同時に、教育学の観点からは学校教育に絞ることにし、偶然もあって、ノルウェー教育を始めた（注2）。

教育制度研究の中に課程改訂研究を位置づけるのは、ノルウェー教育研究の過程で、同国の教育課程の発想が魅力的であることと、わが国においても教育課程改革が必要となっていたこともあって、教育課程こそ学校教育の管理・運営の重要問題だと考える故である。

しかし、文字通りの北川08年稿の論題は過大であり、今回は、義務教育終了段階の数学・理科等の教科課程の国の基準に焦点を当てて、その端緒としようとしたのであった。

（2）北川は、08年稿の前に2003－2005年度「ノルウェーの社会科、宗教・道徳及び生活指導に関する比較教育学的調査研究」（注3）を行った。これを行ったのは、ノルウェーの市民性・国民性教育の解明が日本の教育改革・教育課程改訂の参照になると考えたからである。ところが、この調査研究の過程で、2004年6月1日、教育研究省 Utdannings- og forskningsdepartementet (UFD)の通知「知識向上教育課程改訂」（原語では *Kunnskapsløftet* 字義訳では「知識向上」。英語表記では *knowledge promotion*）が発せられ、2006/2007学年度からの初等中等教育課程改訂となった。

（3）この教育課程改訂に関して、少なくとも次の要素乃至過程が考えられる（注4）。

① PISA 結果のほか、PIRLS や TIMSS 等の国際調査の結果、及びノルウェー独自の国内調査でも、ノルウェーの児童・生徒の基礎的熟練・技能 *grunnleggende ferdigheter (basic skills)* の学習結果は低かった。例えば 2000 年実施 2001 年結果発表の PISA の成績は、31 参加国の中で、ノルウェーは数学で 17 番、科学と読解力が 13 番で国際的には中ぐらいだったが、フィンランドやスウェーデンよりは遙かに低かった。

②この状況の受け止め方ど教育改革の在り方については、同国内で大きな論争があった。

③第 2 次世界大戦後を一貫して労働党（略記 Ap）は国会選挙で常に最大議席政党であった（議員の任期は 4 年で解散無し。1989 年から 2001 年選挙まで総議席数は 165。2005 年、2009 年の総議席 169）。1997 年 9 月選挙の結果、労働党は 65 議席であった。他方、ノルウェーの主要政党では最右派で規制緩和・競争主義政党の進歩党 *Fremskrittspartiet (FrP)* は、1993 年選挙の 10 議席から 97 年選挙では 22 議席に躍進した。結局、政権は 97 年 10 月から 2000 年 3 月まではキリスト教民主党（*KrF*）のボンデヴィクを首班とする同党と自由党（V）、中央党（Sp）の 3 党連立政権（議席合計 64）が担った。与党連立の不具合から 2000 年 3 月から 10 月までは労働党のイェンス・ストルテンベルグ *Jens Stoltenberg* 政権となった。2001 年 9 月の国会選挙で労働党は 43 議席に後退し、保守党（H）38、*KrF* 議席 22、自由党 2 の 3 党連立（議席計 62）による第 2 次ボンデヴィク政権となった。26 議席に議席を増加した進歩党は政権外に止まった。

④ 2004 年 4 月 2 日、大臣クリスティン・クレメット *Kristin Clemet*（保守党）の主導で教育研究省は「学びのための文化」*Kultur for læring* と題する包括的な教育改革提言 *St.meld. nr. 30* を国会に提出し承認された。

⑤ 2004 年 10 月 1 日、UFD は、教育研究大臣、全国コムーネ連合、教員組合、ノルウェー教員団体 *Norsk Lektorla*、県立学校全国連合、ノルウェー学校長組合の合意、言わば教育に関する「政労使」の合意を得て「開発のためのコンピタンスー基礎教育におけるコンピタンス開発のための戦略 2005-2008」*Kompetanse for utvikling – strategi for kompetanseutvikling i grunnopplæringen 2005 - 2008* を決定・発表した。

⑥ 2005 年 9 月の国会（総議席 169）選挙の結果、労働党 61 議席、社会主義左党 *Sosialistisk Vensreparti (SV)*。ただし駐日ノルウェー大使館では「左派社会党」と邦訳 15 議席、中央党 11 議席の 3 党連立（議席合計 87）による同年 10 月の第 2 次ストルテンベルグ政権となった。

なお、他方で、ノルウェーの大政党の中では新自由主義的政策をとる最右派の進歩党は 2005 年選挙では、2001 年選挙で 26 議席であったが 38 議席へと躍進した。

⑦ 2005 年に成立した中道・左派連立政権は、2006 年 1 月 1 日、教育研究省 UFD の教育研究省 *Kunnskapsdepartementet*（略称 KD。*kunnskap* は知識、学問の意。邦訳改変は保留しておく。管理事務内容に幼児教育も含めた。）への再編を含む省庁再編等、新政策の実施に当たった。しかし、少なくとも当初は、「知識向上」教育課程改訂の基本枠組みは前政権時に定められたものを踏襲してきた。

⑧保守党のクレメット教育研究大臣（当時）の下で 2001 年から優秀な教員にボーナス *bonus* を給与する制度、002 年からは能力開発を助長するため助成金を選別的に与える 2 モデル校 *demonstrasjon skole* の制度が導入された（注 5）。これは、中立・左派連立政権は、そのまま踏襲はしないだろうとは思われた。

（3）以上、特に⑦、⑧が 2007 年 8 月迄を一応の区切りとしてまとめた北川 08 年稿であった。ところが、2009 年 9 月の国会選挙では、総議席定数 169 の内、労働党 64、社会主義左党 11、中

中央党 11 の三党合計で 86 議席を得て、引き続きこれら 3 党の中道・左派の連立が継続し第 3 次ストルテンベルグ政権となり、教育大臣には社会主義左党 SV のクリスティン・ハルヴォンセン Kristin Halvorsen が就任した(注 6)。

(4) この選挙結果及び内閣再編の影響だろうか。2009 年 10 月 22 日付け教育管理庁通知-08-009「知識向上教育課程 基礎教育の科目、並びに、後期中等教育の提供構造」: *Kunnskapsløftet - om fag- og timefordeling for grunnopplæringen og tilbudsstrukturen i videregående opplæring* によって知識向上教育課程の改訂が行われた。これは、08 年 1 月 18 日付け教育研究省通知 F-12-08 に代わるものだと記されている(注 7)。察するに、北川 08 年稿執筆の 07 年 12 月の直後にも知識向上教育課程の改訂が行われたのであるが、通知 F-12-08 を検索すると Status: Arkivert と表示され古文書扱いとなっており、俄にはアクセスし難い。故に、当面は、北川 08 年稿を下敷きにして 09 年 10 月の Udir-08-2009 による新教育課程を研究せざるを得ない。

(二) 2009 年 10 月に再改訂された「知識向上教育課程」 *Kunnskapsløftet*

少なくとも、09 年版「知識向上教育課程」(これを北川 08 年稿 95 頁以下では「新教育要領」とも表現した。)は、対象とした KD の通知による 2007 年 8 月版教育課程とは、その全体構造自体の改変が見られる(注 8)。これを程よく概論出来ないが、敢えて、北川 08 年稿を下敷きに、若干比較する。09 年版の構成は <http://www.udir.no/grep> に掲載の「知識向上 科目と教育課程」 *Kunnskapsløftet - fag og læreplaner* のグリップ *grep* (=英 *gripp*) から入る [urir.no/の Lareplaner/ Meldingar-og-styringsdokument/](http://www.udir.no/Lareplaner/Meldingar-og-styringsdokument/) で知りうる。それを北川 08 年稿 96 頁第 3～8 行と比べると、次のようである。

①教育課程の「一般編」 *Generell del* は、1994 年版を継続するとされており変わらない。

②教育諸原則 *Prinsipp for opplæringa* を見ると、新版は、1) *Læringsplakaten*、2) *Sosial og kulturell kompetanse*、3) *Motivasjon for læring og læringsstrategiar*、4) *Motivasjon for læring og læringsstrategiar*、5) *Elevmedverknad*、6) *Tilpassa opplæring og likeverdige føresetnader*、7) *Lærarar og instruktørar - kompetanse og rolle*、8) *Lærarar og instruktørar - kompetanse og rolle*、9) *Samarbeid med heimen*、10) *Samarbeid med lokalsamfunnet* の 10 項目で構成されている。内、6)、7)、9) 項目は、旧版と同じ題目である(北川 08 年稿 96 頁の下 3 行、参照)。1) *Læringsplakaten* は、「教育掲示板」とでも訳すのが良いかも知れないが、日本でしばしば 1、2 枚のリーフレット形式で作成されている各学校の教育教育目標・教育方針のようなものと解される。これは職業見習い実習生を受け入れる企業も作成することが義務づけられている。07 年版にもあったが、新版では旧版にも在った 6)、7)、9) と同列に扱われている。2) の社会的文化的コンピタンセ *Sosial og kulturell kompetanse* は、旧版の *Sosial kompetanse* (同前、下 4 行目) が題目から改訂されている。3)、4)、10) は旧版がどこかで述べていたことかも知れないが、1) 同様、項目名からして 6)、7)、9) 項目と同列に扱われていることが新しい。

③上記の *Kunnskapsløftet - fag og læreplaner* 頁に見られる「知識向上 科目及び教育課程」を北川 08 年稿 98 頁以降の「(三) 知識向上教育課程の科目と構成の概要」と比べると、科目(乃至は専門) *fag* にはかなりの改変が見られる。それらの詳論は出来ないので、今次の新改訂の最小限の紹介として、6-16 歳の 10 年間義務制学校で概ね日本の小、中学校に当たる基礎学校 *grunnskole* の「表 1 通例の科目及び授業時数配分」を次に示す。

表 1 通例の基礎学校の科目及び授業時数配分 (時数単位は 60 分/週×1 年間一注)

Tabell 1: Ordinær fag- og timefordeling i grunnskolen

科目	2009 年 8 月 *注 1					2007 年 8 月 *注 2			増加時間
	第 1-7 学年			第 8-10 学年	基礎学校合計	第 1-7 学年	第 8-10 学年	基礎学校合計	
	1.-4.	5.-7.	合計						
宗教・人生観及び倫理 RLE *注 3	427			157	584	427	157	584	0
ノルウェー語 Norsk	931	441	1372	398	1770	1296	398	1694	76
数学 Mtematikk	560	328	888	313	1201	812	313	1125	76
理科 Naturfag	328			256	584	328	256	584	0
英語 Engelask	138	228	366	227	593	328	227	555	38
外国語/言語深化科目 Fremmedspråk/språklig forfypning	0			227	227	0	227	227	0
社会科 Samfunnsfag	385			256	641	385	256	641	0
技術 Kunst og håndverk	477			150	627	477	150	627	0
音楽 Musikk	185			85	370	285	85	370	0
食と健康 Mat og helse	114			85	199	114	85	199	0
体育 Kroppsøving	488			228	706	478	228	706	0
生徒委員会活動 Eleverrådsarbeid	0			71	71	0	71	71	0
選択・学科課程科目 Programfag til valg	0			113	113	0	113	113	0
身体活動 Fisisk aktivitet	0	76	0	76	76	0			76
合計 Sam	5196			2566	7762	4963	2566	7496	266

(表注 1) 2009 年 10 月 22 日付け教育管理庁通知-08-009 「基礎教育の時間配分及び後記中等教育の提供」 *tilbudsstrukturen i videregående opplæring* の「付属文書 1」 *Vedlegg 1* による。08 年 1 月 18 日付け教育研究発通知 F-012-08 (*Rundskriv F-012-08 fra Kunnskapsdepartementet*)。これは古文書であり、直ぐには内容不知)。資料源：<http://www.utdanningsdirektoratet.no/Rundskriv/Rundskriv-2009/Udir-08-2009-Kunnskapsloftet/>

(表注 2) 教育研究省の 2007 年 8 月 7 日付け通知 F-012-06 の付属文書 1：*Vedlegg 1 til rundskriv F-012-06 Rev. 07.08.2007, Fag- og timefordelingen i grunnsoppleringen - Kunnskapsloftet* による。

(表注 3) RLE は、「宗教・人生観・倫理」 *religion, livssyn og etikk* 科目の略記。

上記の**表 1** で次のことに留意しておきたい。① 09 年改訂のノルウェーの教育課程の国家基準は、基礎学校 10 年の合計でノルウェー語と数学を週当たり時間数にして 2 時間、英語を 1 時間増加させている。② 上記「(表注 3)」と重なるが、09 年改訂は、2007 年 8 月通知旧科目「キリスト教、宗教及び人生観科目」 *faget kristendoms-, religins-og livessynskunnskap* (*KRL* が、その科

目の略記、略号乃至は略称であった)を「宗教・人生観・倫理」*religion, livssyn og etikk* (*RLE* は、科目の略記、略号乃至は略称)へと改めた。③第5-7学年に「身体活動」*Fisisk aktivitet* が新たに設けられた。

(三) 数学*matematikk*の教科課程ないし科目課程

上述の(二)は、本大会プログラムの「発表要旨」のような研究を遂行する途上で知り得たことである。本研究が、今後当面、数学・理科等の教科課程に焦点を当てて、ノルウェーの教育改革研究・教科課程改訂研究を目指すこと、及び(四)に後述するような北欧乃至ノルウェーの教育についての先行諸研究に刺激を受けたことには変わりはない。

以下の(1)では、共通教育「数学」(の教科課程ないし科目)課程 *Læreplan i matematikk* の翻訳について述べる。

なお、ノルウェー語の *Læreplan* の語は、日本語の「科目」に当たる場合、「教科」に当たる場合、それ以外の生徒会活動等の教育内容領域についても使われている。また、それらに関して、国、地方当局の定める基準についても学校が定める教育課程についても使われている。日本では、「『教育課程』は各学校が定めるものであり、国や地方の定める基準を指して使うべきではない」と強調する見解もあるが、私見では「教育課程」の語で国、地方、学校等の様々なレベルの基準を指してよい考える。さらに、以下当面、日本の「算数」乃至「数学」に当たる *matematikk* を論ずる際には、逐一「算数」と「数学」の語を使い分けて邦訳すると煩瑣になるので、*matematikk* には「数学」の語を当てることにする。

(1) さて先ず、「何故、数学の教育課程の比較研究か」であるが、次の事由による。

2003 - 05 年度「ノルウェーの社会科、宗教・道徳及び生活指導」研究に続けて数学・理科等の教科乃至科目課程の研究を行うのは、①よく知られているように、ノルウェーの国民一人当たりGDPは日本より高い。また、国連開発計画(UNDP)が2009年10月5日発表した『人間開発報告』によると、ノルウェーは、「人々の幸福度の指標」とされる「人間開発指数指数」は世界諸国182ヶ国の中で1位であるという(朝日新聞2009.10.6)。②しかし、これまた北欧教育研究者によく知られているように、PISAやPIRLS、TIMMS等の国際教育におけるノルウェーの児童生徒の成績は「基礎(学)力」*kompetanse*は、理科、数学のみならず読解力も含めて調査OECD諸国の中で中くらい前後であった。それは、同国の多数者の期待よりも低く、また、同国が独自に行った調査結果でも同様であったという。③北川03-05年度ノルウェー教育の調査研究では、KRLの問題をしばらく置くと、市民性乃至国民性の育成に関しては大きな問題は感じられなく、逆に、少なくとも日本の教育が取り入れるべき点が多々感じられた。基礎的学習成績がさほど高くないのにGDPや幸福度は世界でトップクラスであるのは、なぜなのか。ノルウェー語教育や英語教育の彼此を比較しても意味は少ないであろう。残る基礎的教育内容は理科や数学であり中でも算数・数学が判り易いであろう、という訳である。

(2) 別添資料の前部分8頁まで共通教育「数学」の教科乃至科目課程の抄訳である。今回は時間の制限上、殆ど英語版だけによっている。英語版も教育管理庁が示しているものであるから邦訳さえ的確なら問題ないという考える向きもあるかも知れない。しかし、ノルウェーの省庁は、かなりの重要公文書をノルウェー語と英語の両語版で示しているが、両語版には微妙なニュアンスの違いがあり得る。例えば、ノルウェーの教育事務管轄省名はかつてノルウェー語では *Kirke-*

utdannings- og forskningsdepartementet であり、直訳すれば「教会・教育・研究省」であったが、英語表示では *The Department of Education, Reserch and Church* とされていた。それ故、細部に亘ってはノルウェー語版で確かめるのが望ましいと思う。

(3) 別添え邦訳には、義務教育終了段階の科目の「コミタンス目標」(注9)も訳出したが、この邦訳の過程で、義務教育終了段階に絞ってノルウェーと日本との算数・数学教育内容比較をしても意味が少ないと考えた。理由は、①教育課程の国の基準の比較としては、ノルウェーの科目課程基準は見られる通り余りに簡単であること、②彼の国では、後期中等教育課程は、中学校教育課程修了者は申請さえすればだれでもが受けることが出来る権利として認められていること、等である。

(四) 今後の課題

(1) ノルウェーの高等学校の普通科進学課程のうちの専門課程である「理数(学)科」*Programfag i maprogramrådet for rearfag* では、数学 X、数学 R1、数学 R2、数学 S1、数学 S2 の諸科目が在る。2009年10月22付け教育管理庁の教育課程改訂通知 Udir-08- 2009 の「付属文書1」*Vedlagge 1*における「表5 理数科の専門科目」*Tabell 5 Programfag i programområde for rearfag* (注10)は、本発表別添え資料後部の北川08年稿106頁に示す07年8月7日付け通知「表6 理数科の専門科目」に見られるのと同じである。故に算数・数学教育課程の国の基準に限っても訳出した「共通科目・教科」だけを見て、ノルウェーと日本とを比較するのでは不十分であり、少なくとも上記の数学諸科目に当たる必要がある。

(2) また、教育課程だけでなく、それらに基づく教科書等の教材及び実際の授業についての見聞も必要である。その際、ノルウェーの新・旧教育課程の比較や新・旧教科書の比較研究も「程度問題」ではあるが望ましい。ノルウェーの旧・数学教育課程に関しては、蔵原清人による先行研究も参考にすることが出来る(注11)。

(3) さらに、大会プログラム「発表要旨」に書いておきながら、今回発表では殆ど活用できなかったが、比較教育学での北欧教育研究には、参考にするべきものが多数ある。

例えば、福田誠治は、北欧諸国の教育に関して、①新自由主義と構成主義の結びつき、②新自由主義の受容は福祉理念の転換・放棄だけでなく社会民主主義的な進歩主義教育の更新でもある、③学力の学校間格差は比較的小さく、移民を含んでなお北欧モデルは機能している、社会民主主義政権期に培われた平等と相互扶助こそ知識社会、生涯学習、転職時代という新しい経済体制にうまく対応している、等とする諸論を紹介している(注12)。

また、中田麗子は、Telhaug らの論文(注13)を参考にして、「ノルウェーの教育に脈々と続く社会民主主義的な流れと、1990年代に特徴的な文化・価値・保守主義的傾向、そして、2000年移行導入された新自由主義的マネジメントの導入の3つがどのように編み込まれていくのか、今後の動向が注目される」、ノルウェーの教育改革はまだ「2つの問題——知識の質と不平等——に対応できる」答えを探す途上にある」としている(注14)。

まとめに代えて

1994年、97年教育改革途上とその直後にノルウェーを訪れて知ったこの国の教育には、(一般的日本人の?) 私は到底「文化・価値・保守主義的傾向」を感じることは出来ず、むしろ、伸び

やかさ、素直さ、知的戦略性、機動性、柔軟性、清々しさを感じた。しかし、義務教育 10 年間を通じて、遅くとも 2007 年 12 月末迄は、ルーテル主義キリスト教のノルウェー国教教育を重視する「キリスト教・宗教・及び人生観科目」*faget kristendoms-, religins-og livessynskunnskap* (略記 KRL) が在って、それが 2009 年の今次改訂迄の間に (やっとの事で?) 「キリスト教」を少なくとも科目名称からは外した「宗教・人生観・倫理」*RLE* に変更されたことを顧みると、保守主義的傾向も根強いのかも知れない。

KRL の継続を確かめようとして教育管理庁 Udir の URL、<http://www.udir.no/grep> にアクセスしたら、KRL は無くなっており、代わりに「宗教・人生観及び倫理」*religion, livssyn og etikk* になっていたことが、本発表 (一) の (4)、(二) 及び (三) の切っ掛けとなった。

道は遙かと言わざるを得ない。

注

(注 1) 北川邦一、ノルウェーの 2006/2007 年・初等中等教育課程改訂、大手前大学論集第 8 号、2008 年。

(注 2) 北川邦一、ノルウェーの 94 年・97 年初等中等教育改革の概括的調査研究。平成 11 ~ 13 年度科学研究費補助金・基盤研究 (C) (2) 一般・研究成果報告書、2002 年 3 月、全 201 頁。なお、この報告書内容の大部分は、日本高校教育インスティテュート (加藤憲雄代表) の URL の次の頁に載せて貰っている：<http://ins.jp.org/#kitawaga>。

(注 3) ノルウェーの社会科、宗教・道徳及び生活指導に関する比較教育学的調査研究、平成 15 ~ 17 年度・科学研究費補助金・基盤研究 (C) (2) ・研究成果報告書、2006 年 6 月、全 149 頁。なお、この報告書全文は、前注 URL に掲載している。

(注 4) 以下の①、③については、北川邦一、現代ノルウェー教育制度の国民的背景 (2)、大手前大学社会文化学部論集第 5 号・2005 年 3 月発行中の「(九)2000 - 2004 年のノルウェー教育政策の動向」31-42 頁、参照。②については、北川邦一、現代ノルウェー教育制度の国民的背景、大手前大学社会文化学部論集第 4 号 6 頁の表 2 及び表 3、並びに、北川邦一、ノルウェーの初等・中等学校における宗教・倫理及び社会科教育、大手前大学社会文化学部論集第 6 号・2006 年の 51 頁の表 2、参照。

(注 5) ボーナズ制度、モデル校制度については、(注 4) の北川 2006 年、45 頁、53 頁、参照。

(注 6) 他方、最右派の進歩党は 41 へと議席数を伸ばした。この選挙結果については、次記 URL の三井マリ子、ノルウェー国政選挙レポート 2009 (1) 及び (2)、参照。

http://www.norway.or.jp/news_events/news/election_report1/

http://www.norway.or.jp/news_events/news/election_report2/

なお、09 年 11 月 12 日現在、web で教育研究省 KD にアクセスすると *Forsknings- og høyere utdannings-minister* 2009 年 11 月、web で KD にアクセスすると *Forsknings- og høyere utdannings-minister* として Tora Aasland が、*Kunnskapsminister* として Kristin Halvorsen が並列掲載されている。故に後者を教育大臣と呼んでよいであろう。

(注 7) 資料源：<http://www.udir.no/Rundskriv/Rundskriv-2009/Udir-08-2009-Kunnskapsloftet/>

(注 8) <http://www.udir.no/grep/Kunnskapsloftet-fag-og-lareplaner/> 参照。

(注 9) 原文英語 *competence*。ノルウェー語では *kompetanse*。

(注 10) 22.10.2009 *Vedlegg 1 til rundskriv Udir-08-2009 Fag- og timefordelingen i grunnpøpleringen -*

Kunnskapsløftet、22 頁、*Tabell 5 Tabell 5 Programfag i programområde for realfag*。

(注 11) 蔵原清人、ノルウェー上級中学校の数学カリキュラム、工学院大学共通課程研究論叢・第 39-2 号、2002 年、133-146 頁。

(注 12) 福田誠治、新自由主義と北欧、比較教育学研究第 39 号・2009 年〈特集・ポスト・ネオリベラルの教育設計〉、30-41 頁。

(注 13) Alfred Oftedal Telhaug, Odd Asbjørn Media and Petter Aasen, *The Nordic Model in Education: Education as part of the political system in the last 50 years*, *Scandinavian Journal of Educational Research*, Vol. 50, No. 3, July 2006, pp. 245–283。

(注 14) 澤野由紀子他編著『揺れる世界の学カマップ』明石書店 2009 年「第 2 章 北欧 教育の理想郷とその変容」中の 17-134 頁、中田麗子執筆「ノルウェー 知識の質と不平等をめぐる教育改革の途上で」。

以上